拾遺集 全

へ利9
3869
45

特へ利9
3869
45

大正七年三月吉日寄贈
室井平藏氏

序

昔松尾丸翁紀乃佛塔を
雄子伝聞て父母の志きりに
戀しゝ白雲の思ふ心塔
風移り井双尾主歩ま
加ゝ十三回秋ゝ
今実魯ゝ
ほひゝ
この法會丸

[illegible]四方旧友[illegible]一章[illegible]
[illegible]小冊[illegible]
[illegible]追福[illegible]一巡[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

此道乃弱法師[illegible]
寛[illegible]拙きこと意[illegible]
[illegible]

[illegible]

天保二[illegible]
辛卯仲秋

[illegible]　超音居士

霙と餐る庭の小雀　笑魯

佞侍の折〻問と訳く所也　貞和

故笑魯叟の清作の忌よ

訳されもせもあるぬ表ちりよ　米の屋

俳諧や負ま十三佛〻構　候雪

いなほまれ中よんあるや柿の実　百什

新蕎麦や侍りと注く論の言　午桂

[illegible]の癖　起直

[illegible]　亀鶴

[illegible]の[illegible]ぬ[illegible]　歩枝

[illegible]表や見れ[illegible]　芝楽

芒紙[illegible]ぬる小[illegible]　慶舎

葬や[illegible]　換我

ある事[illegible]　芝[illegible]

民[illegible]の紋[illegible]の月

天井[illegible]嵐[illegible]　歌山

江戸より作り物に出る秋の夕　巨擺

さんとに雑事すむ古里哉　我丈

今宵こそ百年の業を忘れけり　業長

天地の恵梅なりし業百元　梅幸

稲妻や卒塔婆の影は絵の事　休亭　秀調

あれ打て戻りて涼しき　くず女

命なれし蚊の恋の恋を　賀尉

七夕や稚き弥生の初ちぎり　一猿

[illegible]人も[illegible]し杖の露　[illegible]

巡りて眠し夜の水車　市郎

みな見侍[illegible]の[illegible]人の癖　納所

打[illegible]又明と掛るよ蕃椒　汐車

笑夢より雷よ蓮の[illegible]

仮名とそ[illegible]

[illegible]

嶋平四[illegible]十二四[illegible]教除よ掛る　路考

手廻よ長沙掛[illegible]　之丈

[illegible]十三[illegible]は琴[illegible]　牧[illegible]

一柄抄[illegible]来たりとも酒　伊筌

秋[illegible]と[illegible]　有巴

[illegible]十三佛や水仙花　言曉

井双[illegible]は迫の[illegible]

[illegible]いきの人[illegible]と[illegible]

吹[illegible]や[illegible]りを[illegible]　上毛小泉　傳成

清[illegible]書は[illegible]　吉[illegible]

[illegible]

温[illegible]

[illegible]椎の[illegible]　牧場[illegible]　近徳

曲笠[illegible]　浪河

薄雪[illegible]　吉良

さ[illegible]井双菴[illegible]

十三四[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]　小[illegible]

折句
冠頂
五文字

○印

句座仕到来

淺草橋運

チカト　ちゝはゝと光り　蘭は　通ふ　雨　一賀

ウレツ　お水の礼を　門ゝ　妻の　丁ゝ　〃登石

ハサク　冊ゝふとさゝる　氏白ゝ　配り　物　〃如霍

クミカ　ロ刀一　筆ナメ　皿ゝ　むゝ　ス　書キ　〃竹酒

カヲモ　垣法ひかゝ　如　月の　桃　日和　〃夢見

イノレ　いろゝ　工　冊ゝ　かゝ　ゝの　蓮花草　〃司水

フトウ　新宿の　戸　拍へ　ゝる　裏階子　〃酒樂

チツカ　ちゝゝは　妻ゝ　島田ぐ　勝ゝ　元　〃本楽

ヨヘヨ　墨絵や屋根出来る　姫の身　〃花久
ハウヒ　袴腰ぬけ小しられへと引る　妻　〃春木
ニカイ　ひとの寂に井筒とみづく枯し木槿　〃花明
ナヒヌ　仲〻のしらきをふぬかの名く　〃五来
タツイ　竹の輪〻使ひハ早〻使ふ　子　〃文公
ハイキ　毋のもとをいをいてて子が　〃哀夕
ニリヒ　雪葉北斗ハ一トロの牙のきりぬ　〃角子
カタヒ　影も秋玉川の月光る　萩　〃扇山
ナハノ　内イ〻の嘶耳こう呑迄　子　〃梅二
アヘア　朝影も紅唇が　婦北去仙　〃東我

アハ　天窓と勝手をきをる　代　胡蝶夢　梅居
クイミ　久喜周二板の眼つる　見世の　番　俳草　田張
子ヤヨ　祝ひつ者。中山子眼読の余ホ乙ヒて　小倉蓮　志
コホク　腰ぎりの反古ヨ無のある草北　菴　〃
スカモ　ちちく〻ちく〻光ハ客の前イ　網　〃利
イセリ　暖流が浅掃き寄せる両大師　〃銀杏
ヨヲソ　妻と楽ア遊る花葉ヨ深ヶ紙　〃千鳥
タシヨ　竹箒も注ちるる　〃　〃抵船
ヌアハ　濡き北場と倦き〻よ紙のちるぐ土間　四日市　〃平枝
ヒヒト　山北ヨ行り市し　〃　〃魯抵
　　る土原ウ子　〃　〃鯛三

アオサ　足らぬる猿へ子のあてすさらる餅　〃　三諜
カヤヒ　鮫と妻の焼くやりし母ゞ獨り者く　神田　林子
ムキタ　出しすしは經文清し　一　渾名つ　〃　寸好
コタヒ　子の為もたるまぬ糸の一ト盛り　〃　蕊花
ニハカ　麦島と腹へまんて帰る絵師　島連　綾麿
タイコ　勝れぬ糸とけがるゝ鯉の縫　〃　李渓
ムスメ　芸を水道の恩ミ乃国三ッ色　〃　其楽
ヤヨヒ　やんちやんの欲くさまづる得の畑　〃　三夕
○　飛り交る古歌を菴主の袖屏風　下谷　春塘
ハニタ　幼馬やまごへの字まそ多りくるゝ　花月

○　延して葉かくまうるし　種瓢　湖月
○　自慢鳥菱豆もうる　銀の匕　菽宮連　尾松
○　去つくりても相生ひの二挺渾キ　〃　文的
○　家しさずてり辨慶飴の坊主持　〃　柳水
イニエ　出雲の国へ参ち残る錢子盛　〃　野鏡
○　磨くれ来れ門トロ杯きる　〃　雲月
○　和らうま喰ひ飽きたり種を町　〃　子菓
ハクコ　袖もりし汲て竜殺もちなれ杯　〃　如水
ヨミハ　世の中を九く数寄庵の柱立　〃　一的
○　頃衾るくまは巴さ王親のたより　〃　白挑

○ 早イ内折ると雪霜美しの指と　〃 三宅
○ 紅葉とりく裏れ花曇り　〃 定丸
ハケハ 夫雨ハ降ると花の盛り初芝居　〃 舟帆
○ 廣〳〵 ヨミセ 見るの場や京北紅羅と折攝所　〃 祇東　青山
ウカエ 後に白き〳〵 紅新れ襟ハ　〃 桐雨　アカ坂
スタカ 枝皮の来紅市れ勝り昆布　〃 子重
ヒエム 日巡れ様よ〳〵 村紅俗　〃 千夢　四ツ谷
ツユキ 角文字よ柚饅の餡れ切り小口　〃 静意
ニトシ 極る紅ハ敷〳〵程〳〵 縅　〃 葉児
〃 素名

ノキフ 武家町と新牛房れ及り折る
カトク 可也屋〳〵屋〳〵お琴も馬革の芽　青山 梧月
ウトシ 字ス 水と〳〵よ〳〵も集の硯　四ツ谷 仙風
アキカ 明ス〳〵ス京美ス及り及る　〃 里雪
ヒタチ 白ハ蓋と出ス高小皿芽蓮花　〃 桝川
イチミ 鳥〳〵 掃〳〵根附時計の像塵芥ス　〃 尤旭
ムアカ 麦れ穂や炊焼〳〵軸ナの図　笑草
ウエテ 天〳〵雷の声ス子ス　佳景
ニ子ヒ 寒ど青〳〵 眠イ世常の少次竹　新水
ホツシ 時鳥角任れ〳〵書写れ窓　深堂
南駅

メコフ　月の光くまなき時なるぬ　笛太鼓

ハトキ　夜えきの寺は生酔ひよなれ配り　井渥

カルタ　駕籠よ所く酒屋の義さへ旅用意　〃　呑亀

ヨミセ　春くまつりまつりまつりまつりまつり　〃　洗耳

ヤタイ　きり水よ滝き涼し　菴の庭　〃　頓神

ウサカ　時雨の光きの巨燈いかき巴　〃　多摩

エスシ　十五夜ごろ糸瓜よ敵ごろ　〃　都路里

テヒハ　出格よ雛の仕舞れ花卯ごろ　〃　開酒

モラカ　本母寺の雲雀よ碁敵れ仮り枕　〃　三紅

チハス　乳へ命る蚤と笑ふも数を尽る　〃　完牛

〃　布帆

ちんぐ　お相よ近る市蚤をとりきり　山谷　扇風

大変　おまんじよ汗ト　〃　琴糸

むりの　下戸れ天窓へ酒と名つかの事　〃　豆忠

きまはらめ　焼鮎の縄を氣と　はず　〃　紙安

ほんぢ　関とりけく菴をゆづり　〃　山秀

まつ　一杯喰ふく鮫の歯をゆき　〃　馬城

ちへち　新ぐど業ち　〃　煙り

ヒナア　一茶ツ茶れた仁茶ち　赤蜻蛉　〃　泉

ナトシ　清く凡ゲ研く老猫れ　ちのび　駒　〃　亀泉

もち姫　提糸とる　線く　はず　み　〃　如泉

山展　横と尺そのこと多く

フキシ　晴を待て雲消ぬ　鮎氣樓　山谷　葛張

ミヒラフ　正年の鶯　年毫此吹雪風中　青山　春雨

ホナて　炮烙の中も皮切り　豆腐　〃　三巴

カレア　風ひく吉野　波治ぶ見加減　小島　森鳥

ヨヒス　無比雪よりの移る鶏鳥ぶ隅田焼　九鳥

ハナユ　春ち茶泳ぐ喝田の夕ちれ　野叉

モサチ　ちれ夕ち晴ち花時ちくるの夜　友賀

ハナナ　晴ちとかて戸庭ち裏の月　鶴橋

ヨミコ　無比梅ちの自生ち歩ち小湯主　青山

水流

ナツテ　梅ちの尺ち妻髪結ひ赤れ世ちの　若草連　數翠

ソミコ　振舞ひ更ち雪踏の後ち二人り　〃　辨敬

アコメ　会ひにのぼち門ち待つめ命ち待　〃　名山

サカツ　さしのて此簪ち花蒼ち　〃　志和久

スニシ　涼蒼似新り　交る　〃　吟賀

ナてテ　名ち濡ちまて濡て居るち沖　〃　護宗

モサラ　持ち嘉て座の下ち〳〵動れ兵商　〃　文光

ハキカ　張ち絵師ち妻ち　京猶　寄幸

セキ　世ちのち赤ち　所ち　襦

セキ　脊ごち此鶯ち利ち山葵　〃　キヨシ

〃　万喜

トウサ　朱冠花海鬼灯と筑紫　〃　鬼弟
マムイ　待人落ちと切りの色直し　〃　里川
チカシ　乳房ナ花加減の紅絞水庵垢　土橋　来賀
タムホ　田の人ち植まも　〃　春枝
スミキ　苑めかぶんめ一小四く家の嘘　〃　糸竹
ヤヨイ　山里ま垂滝　細き　糸　車　〃　木成
ナヒウ　鴻尾のすち白魚の海素　〃　錦袋
ウマト　はぎ物も宗トの日句ま一寸ち　〃　数恵
ヨヒキ　割りかる稼ま紙も利ち　〃　綾羽
ワイテ　沢ケ光くいつ子ち意のまひま　不明カシ　我蝶

ホムセ　星月夜ま子ち一ま加ちる資戸や　畑　〃　廣重
カタニ　き雀盥ち多口ち定ま一　〃　三素
ミノト　乃可ちち卵ち峠迫　〃　松声
ハウム　神年や連しまちもぐま遊　〃　夕露
タムケ　代系り稼ちやけちも毛巻蟹　西下　賀雨
〃　滝壺へ白く奏ち莫の使うま　〃　渡橋
ハチマ　蓮の系とちち一ま戸ちち明ケ　〃　三車
カワニ　勘當の滝くも母の息一者　京ハシレ　桃夢
セツイ　稼ま蝶神と多ぐず菴　静　アタコト　五凡
ツチナ　待ちれち眠ちくちるセちび　下ハ古　窓雨

○ 拾ひ集めて二福袋作る　五時店　布引山

ヒトヨ　日を面へ境に竹原を焼き馬　赤八子　五州

ウメヲ　梅畑より太夫嶋北　〃　連子

ワカク　移後や小竹を言ふ家　フカ川　仙蝶

○ 蓋よりも深き器に雛飾屋北杜の京　〃　永楽

ハヤシ　破鶯子の矢来ふ高ふ　〃　加林

○ 掘り上げ得の中なる人たち子　〃　右衆

○ 立掘りにある砂に人と寄し　〃　逸々

テヨケ　蝶〳〵と追ふ日たこの坊主　〃　鶯黄

クウケ　日ぐれる長屋時下駄の音　〃　笞二

ヒナカ　雛れ膳を〳〵づる毎月浜乃来迄

ヒエニ　天鵞絨の襟毛も捲まる　〃　花芳

ナクリ　縄もぶれ梯の曲りと寄直　〃　夏橋

○ 小こ〳〵と猫むむ所　〃　菱國

○ 初〳〵と境に波　〃　安枝

テイコ　を拭ひ一つ足飛びの蓮を　〃　喜正

ニアト　寄も軽き秋にも高き　〃　白銅

キシー　京北彫しも深の方瓶の庭　〃　珠文

ヲハチ　おや七り七り箱を寄の支度　向ヶ里　竹馬庵　〃　公太老

フヲナ　舟出まで〳〵動き拭ひの酒よ浪　〃　許林

〃　卜杖連　〃　静志

フカス　身の長滝戸に住る玉椿し　〃　薛哥
ミヽヲ　嵐尾峯の水はナウ〳〵芦売火　〃　薛蝶
クウヨ　協へ茶は所長瀧の四ツ目網　〃　薛馬
ユモミ　夕暮や京へ精を水うつ　〃　薛次
見も訳　質屋の鳥子が流れ出り　神田　亀頭
コカツ　なきれと鶴は茶の絶もなし　コウヒ　麹九
ウハム　臺まで就振舞はある首の名　三十ケ二屈　真齋
イテト　五位の長紙を刈へ濤うつ　〃　珠角
シタ　推薦と冊出しは就見せ　〃　一明
オカユ　さもも水は沙る芦屋の湯の沙り　下毛原屋　音七

ハイテ　撰ら窓稲積て我の〳〵かり　〃　元博
メユテ　眼を笑ふ子ら洗濯てるの事　〃　兎角
イフヲ　井戸へ此石洞清て音原　〃　板クラ知　硯
カシマ　掛ふれを仕舞ふ心出て常地　〃　ハシカ　玉倉
スマア　涼しさや松をもづる家うち紛　仝
ヨセア　泌み資よ寸し度よ深遠ふる　サノ小巾　春硯
カカミ　鶴ら石唐子は智恵を宮の厭　〃　梅枝
スヲニ　巣を他る親多世住一道の蕎　〃　車文
フユノ　新ふる雪の京久を鉞を沖　〃　酒楽
ヒヱキ　彩ふりて冬給庵とて逢ふ蕎ら　〃　車柳

イミス 一ぱいまんまる衣桁の丸提灯 熊谷
○ 松ちよ嬢の事を乳母親 出山
ソテウ ぶらぶりの丸提灯丈け伸て 小畑 渡船
テワウ ふいあ書く解に折り乳母の脊 巴流
ゞ まるやまるまるの提灯裏白し 如翠
ヘムケ 紅彩色の浴ひ用解る化粧系 トナラ 花鰈
カシク 書くあの三栗小体まるに 清花
トウサ 形ちと乳母が坊ひくさたしし子 押水
イヌヒ 稲妻や布袋石を光らせる 志友
ワハメ 筑波萩花咲るあとく 蕾 天明 太水

フエイ お流しと色風呂へ板かゝら 拘香
クイミ 鞍替の天見も馬の耳月風 扇杜
リミユ 義ともまるるや 横江の小夜 山守
ソヒカ 神垣や一ッ巴の 蜘牛
ヨハナ 大流屑は孫人形の累 喜丸
シシミ 下盥白見袋 浮イてる 言盛
ヒイカ 豆腐やと沖秋義は髪の出来 秋谷 芝
ミヨソ 水瓶を横まわ迎ム 掃除波 新橋
ヨフチ 秋も寺人中更ケて義哥所小栗三宝 筆丸 ニクホソス
サリ えキ 猫ぐす寒る又板の 猫 貴丸

ニコ　流とおる――た後ゑも流　〃　松　永
エテア　穂見れる拭い指との面が城　〃　元レミウ　盃洗
トリル　安もる汁の糸ほきり湾江の艶　〃　夢中
ニヤヨ　松も眺を休めて色るよれ山　〃　小松連　上和
ミヤソ　水早――矢剣の指れ反りも弓　〃　松月
〇　ちちくとは絲碎くて橋の白　〃　水本連　讃夫
サヒフ　三味線の撥さと中ちる紙番所　〃　黒音琴
ヲトハ　氏迫ひち紙下ともる湾腰　〃　フカ川　河丈
ヨホト　弓月沢月氏碎くけりくちゆ高妙　〃　カン田　竜二
ヲキリ　袁彦変氏宮ち裏ち長ぎの子　〃　八兎

〇　毒くとは乳母の里　ヲ三章連　一通
ヤフニ　郭拡板乃ゝ母ゆり巳ちち　〃　滝　〃　菴喜
〇　見ゆる浴るを色すかゝ　〃　牛門連　木牛　餅
〇　ゝゝ流ゝ流ゝ見ゆ横花　〃　宮住
〇　脇る紙常の如ゝ人る夏北　〃　素風
〇　加るくと世ちゆ流ゝ志の湖　〃　カミ三
〇　流ゝ一年ゆも夏と口果報　〃　言二
〇　積上ちる菴の机所雲角花　〃　一竹
〇　湘煙鏡くー卜掉戻ち村滝　〃　蔦窓
〇　ゝくゝ戻る柳の早干レ鬢　〃　其石

○ 御いきそこ海對の牡丹 〃 山中
○ 主なる者く初だる七代目 〃 古挺
カクム 唐皮紙に書しる丹見の連歌 〃 卯典
カキツ 行方知れぬ門へ網を卸 〃 (上)
○ 七夕壺たつまつ波は帰り咲 〃 語友
ツミサ 月清 芝と寄せる 〃 三九
○ 馴しとの沼の捌も 〃 一子
ヨモウ 玉卅へ栗屑冠する 〃 上毛ホイスミ 米一
セハシ 浅湯 のま賓頭盧の赴向 〃 東砂
コイツ 家加へとしい可這入る妻乃友 〃 暁水

ヒコサ ぶけぬ人日建を眠 〃 雑煮暖 〃 德英
ホツコ 盆を踊りつれ 〃 子北 〃 稲丸
ヤクケ 中まを〻へ掃き捨迎吹の髪 〃 桶丸
フウカ 文と清ムち家度数の赦へ来て 〃 見好
スヨヒ 二世縁ぞ子北日の松も深く蔦子 〃 寄山
ハトウ 御帰り土手の系もぶ蔦の色 〃 德成
ヤコト 閑ぞ子よ拙き形よ螢 〃 古水 此毛
ミシカ 鉢責の咲も内紙の辛い嵩 〃 志好
ムカタ 出責を清る咲も草 〃 シノウカ 孝成
フハコ 敬し流し茶山吹の小縷り 〃 古海 跳舟

ニカシ　冰とも実ぬ陸奥　新造好　〃雨貢

○　真白な肌打ぬいで夕化粧　〃東川

アサヒ　きぬの素履よりかゝる日和風　〃巴静

コカイ　黄金咲く門まで蛙井戸の里　〃一登

カクノ　八軍へ首を突込の雷の音　〃芽柳

カハヤ　活金の畑よりきく所丹戸　〃蝶二

○　迫ひ〻郭よ風吹り来ぬり　〃月河

ホハタ　晒す布脛白ぬれ袴きうけ　〃富北

フカロ　突打振よ光も花きて廓の先　〃上高井可笑

○　祝ひ月田安よ稲穂が特よて　〃成定

ハハハ　羽子板の長ふ遠ふ広の風　〃虎葉

ハツキ　素山登の伊人と素泊一本蕎麦　〃泳光

○　花ゝ〻と化ふ咲く子ちく　〃亀閑

○　行ふ〻庭へ出ふ見る之夜まち　〃暁枝

ウコハ　浅文字の読声濁ふ蝿乃ぬ人　〃荒金湧石

ウレハ　雪も去ぬ変あり京北桜　〃河信

○　沙や〻と脊中よ行の下り坂　下モ八木　〃瓢中

ハツニ　初月出月よ惜ふ一打たゝん　〃大直

ヒハア　沙や〻寒へ二ふ寒一朝の菊　〃傳亭

ロニヒ　炉寒きよ打月と吟く被布の友　〃笑山

レロヲ　冷風や掛唐紙の　机　〃　河笑
コミタ　引き〳〵帯の幅うすき牛の皮　〃　井住
ハアカ　這出し〳〵り焼と消る肩衣　〃　大伊
カウホ　傘の裏と見るや　時鳥　〃　一力
トツキ　ぬるゝ〳〵書が志るの哉の数　〃　和則
ウロウ　弱きしの羅紋筆　つる筑紫中カ　〃　忠二
ナクヨ　すきき泣や墨る清る猫　〃　朝倉
チセム　蚊ッる弾ハと手乗冷の河分刈　〃　永弼
ムワハ　帰来れ紫ゆるてすき墓の桶　〃　四ッ谷　月成
ヲフキ　乾敦と合人うる張る絵仕る子　〃　玉川　鳥成　蛤

バコミ　別上る鯉も洗たり乾れ月　下谷　五橋
タメホ　竹北皮浴酒洞り乃法師哉去　小川丁　静雨
セワハ　松華写さ図西ゆ　機搗の夜　〃　関女
コタヒ　小袖ちさ箒筍よ妻れ膝寄ひく　〃　七里
ハヘテ　寒羅屏風坂ゆも　蝶はゞ　〃　静路
カレハ　弦ゆ〳〵よトメ正脱〳〵子の紫見て　〃　正好
ヲキカ　大流抜の雪後り微を風浴ひて　〃　東花
フク　姉〳〵さ妹ゆ口〳〵涼〳〵　姉　〃　抵楽
カヲキ　笠級も踊り子連の　京麻の子　本丁　白梅
ケイヤ　蕊志素〳〵伊世さと聚〳〵八日月　〃　放子

メサユ　作れ子笠も孝見ぬく雪ヶ酒　李下集連　樹響
ハナウ　初拾ふ良路へ旅もうはりかな　〃　井士
ヒノキ　雛店の軒ヶ匂ふ つゝ　〃　國松
○　ゐる集メ村も彩し　初見せ　〃　氣代
カウキ　葛師や　梅のゝ人れ夏の浮く　〃　芋西
オルト　ゐる撥嶋影ゐ皮ゐる土ゐ　雀　〃　魯霍
ハッユ　夏風や　筑紫へ夏の　〃　柳枝
ユキユ　世いろれきれと糸屋へ　〃　空生
アウニ　り焼よ浮名ゐ　〃　部屋　〃　魯曉
キカク　京男とかぐる田女ィの花車　百丁　悟月

ショウ　頌禮も寄ゐ注ゐるヶ乳母が餅　浅草　豆入
フテク　風味鮮ゐ秋も秋の白れ繋ぎ　〃　如竹
ふ庵　夏日の山ゐ紅葉と樹き　〃　可東
ゐえさろ　一刷ゐ如ゐ極メゐ秋　〃　平瓦
北辺　四日市　朝市は庶毛で四ッ九日　草ヤ丁　居山
宮根　根探しの妻掃笹ゐ　〃　風朝
長枝　枝折戸の福をかゐて蒙禍　〃　孤二
大阪　大鳥居阪毛ゐ月の加夫ゐ　〃　亀山
亀山　杉山撥をゐゐと寄に泥亀菱　〃　夜鼠
フリク　折ゐゐまりハ蕾ゐと白ヶ掃ぐり　〃　名

モリコ 杉の苔に埋まれる菜花　〃 芦京

テレハ 蝶一つ白く仁王に止れ　〃 仕一（青優）

ハコハ 刎ねる鯉よ一丁人蓮の怪　〃 相主

キコク 京の宮は近よるべき菓子袋　〃 一杜

キリカ 雉子の眼を見えぬ犬と打駕の中　〃 政女

ヘミカ 紅梅枝に水向けとする紙位牌　〃 我笑

トシヒ 凧の糸に彩色する柱木笛　〃 川亀

トミカ 土臺の水壺縄よ　〃 五丁楽（下サハ七）

アキヒ 鳴呼犬の宮原悪る沈む森更ふる　〃 一馬

ナカヲ 何のなるぬ新〳〵戻る迷橋　〃 雨巣

ヨタカ 鷺鷺の三尻は水よ　〃 晴雲

ミトウ 迷〳〵よ時化る声　〃 芭角

アサヲ 朝霜や空動〳〵と大遠し　〃 東兒

○ 袖を体〳〵橋潜る帆のトケ加減　上サノ毛 〃 柳之

ヤシヨ 九〳〵宮よ住みけ〳〵量る秋ると盆　〃 村カミ 一得

カヲ 厂の丁忘萩の王冠鬼よ津〳〵　〃 シモノ 一路

キレユ 岸へ寄る汐尺〳〵孫む夕月秋　〃 八五里 養る女

エシウ 極先キよ月動乱の量る宇治は寺　〃 映雪

○ 〳〵と鷺志〳〵苔の川　〃 梅枝

ハツキ ぞり〳〵松の月メよ〳〵子　〃 ヒラク 斗月

〃 ムラカミ 里苞

○ 母城の桂女夕日は青の　雨　〃女好
○ 月か城の月ゆ艶見る小夜　姿　〃キミヲカ　扇洲
○ 紅ゆけありそう勇士は　仮名つゝ　〃清永
レハイ　織は女の爽もくしと　糸つもき　〃東花
カハツ　冥鼎や鶴ゆも　塔る　葛の　窓　〃ムラサキ　芦水
ハヤナ　芦の磨は屋よ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　〃アヲヤギ　青山
ハアキ　ハッは此赤ひを　任ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　〃　向水
○ いつまゆも世ゆて屋ゆ　花の　爽　〃　永水
ヒキ　干　浮のつゆぬ　岩は　岩　〃　一柳
○ ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　〃ニヤノ　梅香女

○ あつまゆや柳嵐ゆ　黒は　常　〃今トミ　雨醉
○ 泳ゆうゆハいつも足ゆゆ四季墨　繪　〃　梅塢
ニホウ　庭は嶽誉ゆ老イは　落葉　連　〃　小春
アヤナ　雨迫ゆ山ゆゆ山ゆ　峰ゆ　埼　〃　益友
アツハ　秋の雪月を　老ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　〃ノモ　東柳
○ 欠雲ゆゆ　抑ゆ　机は　ゆゆ　万驕　〃テツ　風仙
○ 和ゆかゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ　〃　鬼尾　〃　鶴川
ミノウ　嵐尾州ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　〃ヘテツ　文山
ミノム　尺ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　〃　半山
ミノム　年庵は　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　〃添ニ山　嵐笑

キヒカ 氣も抜くと雛の樟拙 紙だらり 〃白方 如圭

エミキ 枝打つく麦藁 涼しさ 樹の氣 〃神戸 志水

サナキ 河の高瀬 高嶺より 訪ふ人の 高瀬 〃久万 一枝

人ヲ 廻ひとり 蛇かな 首ふる 大鮭 〃ハンバ 霍林

ノミて 蛙も 枯れ〳〵 白雲 光る 牧の 角 〃花越

アヲキ 朝夕 〃お世話 〃 〃 〃 亀子母神 〃ナヌカヨミ 一柏

イナツ 井筒の 涼めよ 秋度な 汐り 手 〃 千重

カトて 蛙〳〵 通る 汝志 り 宗〳〵 首 〃 琴好

○ 志中 蛙よ 小島 れ 重魚 沈 〃 河往

○ 蛙人 立 ひ ぐる 明ト 孔去 〃 万枕

エヲテ 又人と 思ふ 妻 れ 直 ち 漂 〃 松山

○ 手 後 ち 元 ち 手 ち 曲 小 菊 の 菴 〃 一 雨

ヲエて 筆 ち ま ち ゆ ち ふ 孔 雀 れ 鬼 い 玉 〃 由 之

トキワ 友 達 の ち る 鬼 い 四 士 初 月 の 會 〃アクヨミ 百 月

○ 九 文 〳〵 武 角 と 寸 ち れ た ち と 盆 〃チ系 真 光

○ 小 百 姓 〳〵 大 盃 の 底 見 せ ち 〃 雨 指

○ 五 組 〳〵 よ ち 結 納 れ 女 夫 朝 〃 子 蔓 女

○ 花 雪 ち 樹 ち 日 本 沈 伊 勢 寺 氏 〃 富 川 女

○ 馬 雪 ち 月 ち 雪 ち き ち 女 郎 花 〃 袖 花 女

○ 待 筆 一 川 な 島 田 の 酒 ち る 〃 湖 水

カムロ　雲風と角ふる事おぼえず　〃　文雅
イツテ　菴は門葉もとぢぬ　〃　九工
ヒタキ　人声も消もはてぬる赤男の旅　〃　民和
ヨコホ　御簾りの夜ゝ八方は星月夜　〃　古栖
ミンウ　情ゥ合を拾ふもほゝれ和歌の友　〃　有勝
ミヤア　精をのさゝめハ法の城をし　〃　挑香
ナアツ　なるきゝもあゝ沈し立燃連てのき　〃　不倦
ホナヽ　細川の流よ地よ　〃　蚊睫
フミト　蓋は乾ゝ見ゝ見ゝ　〃　母竹
ハヽヲ　花の陰を仕舞ゝ　〃　銀花

サノヒ　座敷まで香まで敬も望へる子　カンタ　吉常
○　ゝゝとちゆ人ゞ草履の重イ足　〃　黒主
○　ゝゝ桜の間かゝ休の日　〃　秀花
ヨヽツ　吉祥寺待出変れ妻林　本所　魯交
エツハ　絵り柳の連よ　〃　勝良
ホヽハ　丁見せよ業又村の巾をゝす　〃　信一
イロハ　庵燈の廬生も多い花の汐　白カヲ子丁
カトア　陽角力富沢町の朝れ　横木　竹賀
ハヽア　初歳まゞ仮蜻の足ゝ　〃　花菱
ホタム　ほゝ〻たゝ事最深堂の白人子　俄名貴　桐里

○ ハヒア たけ節に門窓連ね菖蒲葺　江府 一秀

○ ふつらんぞ小路に流れく縄筏　〃 波蝶

○ またもおかりしまぶ流れ座敷も搦ぬ撥　〃 越金

○ ゑるしと気黒花車ある姫の緣　〃 角小

○ サトイ 三味線の胴もぬ眠に糸目撓　〃 仲佳

○ ゆんゆりと庖丁を援くさし皿　〃 涼長

○ さりたりと紅麻唄し裏の麻　〃 於免九

○ 別しよ声し藻に育つ金魚の子　〃 扇子

○ スカツ 擶喰し新へ兎が神れ棒　〃 駒成

○ 入相るちとしに約摩ある皿　〃 紫

○ 指込んで名麗れ結ぶ縄きられ　〃 金魚

○ 鳴かつく島の鮑の浪に寸　〃 諺糸

○ 突張って時に割土間の連の穴　〃 諺𠂊

○ 反りかへる騾に別其一つ角兎獅子　〃 圭風

○ ハヤム 寒冴え山へ吹雪に楠乃傘　深川モトハ 岩

○ 淨山ある鰯割し濱の古蓄請　〃 米く

○ スナハ 捨笠と歌って一ト汲く麦の畑　〃 圭栽

○ ナカハ 麗く割し留よ畔灰の針推　〃 十九

○ ヤヨイ 柳ふし招るの橋へ息く拭身　〃 深佳

○ 責られて蒲鉾小家の艸攻きり　四ツヤ 竹子

ニウト　二斬　鶴ヨ籠の鳥　四五羽　アカ坂　三朝
登リ　酒ふりと人まよ　ヨトメ　景雅
トヒツ　戸棚ひら〳〵　船荷の妻　京ハレ　生蝶
ひなし　客人よ　蟹もえせ　祝へ　〃　洞江
ユヘケ　夕暮や　行さも雲よ　蔵表のか　〃　九亀
レハイ　妾宅　夜忘三ッ井ゲ　歳暮を　荷　〃　九常
ひなし　投ケ〳〵　羽織と　ひらけて　海り　〃　吾霍
ひなし　宿屋北　席も　寄合　書　だ　〃　野蝶
ムスヨ　抱ふや　抵抗を　紀女　礼　芝　亀山
ヤヘハ　矢抱樊的場　寄り　原の茶屋　酒於久

タキト　ちまき家の御製よ　漁れ　砕き　力　↑毛大月　伯更
テムウ　良の主の嬢二　捉ウを　ケッ　敵　〃タミヘ　深仙
ヤヒカ　和ふかよ人を　分〳〵　陽角力　〃ツキヤ　暁雨
キスト　行ウ道ウの原　さ人　ん乗人　〃　亀ト
フヨス　ちまさ紙馬よ　つけ〳〵　吹楚の秋　〃ナクナ　仙路
アヨヒ　思ひ日や　女ち　羅の　唐い　〃ヒユヘ　虎勇
ヘツカ　松風の　かよ　淋し　きし　紙　孫　〃　和調
ヒヘヒ　鄙ふりの　ふり　月き　度ひん　さら　〃ヘツヌ　翠竹
ヒレヤ　鯛や　陸宮　ひ　ちる　山の　泉　〃　楼月
ヨカキ　佛ち　酒ち　かし　きよ　ひまや　葉の　宴

ヲフハ 粧ひ畫に手ましき花ちりき 〃 馬光
ハフア 舩に昌に更る相生の綾羽鳥 アハノヤ 綾泉
スツサ 是の手花雲に流して笹小歌 〃イタクラ 如流
アムシ 足利のむかし字や字像松 〃 如松
ヤフナ 松葉のなにはを志て次長眉 〃 玉傳
シワヤ 思量家僕里に八重かさね 〃大ベイ 次香
メツス 花月や露の花押れ隅田川 〃イヽクラ 元洸
カツカ 菊あかゞく積む露に○ゑ八ぢまし 〃 不精
シテキ 春雲の手摘んで手摘蘭鶴り 〃大イツ 讃木
ホイフ 春手○の稲一ッ株二ッ漾 〃 要子

ソユハ 袖ぬれて湯殿を出る萩の花 〃ヨベ 花川
タフス 腰かけ不破の篤に吾招き 〃 藻川
アケニ 紅風に動と白菊新田山 上毛ミツ山 水仙
チノア 地にも又戯れて萩の浪河 〃ヨコサ 北渓
ハマツ 這かゝり松に志二仙の篤りつゝ 〃ヤタカ 和水
スタイ 松笠に鋼は囲ゐ綿り糸川に 〃今イスミ 登鯉
タセキ 蓬しく鐘に向く子の字の縁り 〃 登舟
サカツ 桟橋の風に蔵志の蝶の興 〃イチハ 樵楽
アナツ 誂の鳴も入まる恵漫し 〃 蕙志
ヲキキ 女房の豊も花車混要メ 〃 一清

コユツ　小ち瓶の湯を指いてふ孤と云
ツモフ　月の樓のもとく安宅の笛の波　〃　東　紫
ヨシニ　四ッ竹の上ひとつまもみぢしし　下モ口新　紫石
ヤチヨ　山ちく茶屋の浮の横渡り　〃　紫省
ツイユ　通天の入日てらく夕紅葉　〃　一馬
ケセヨ　歌頼の淺塔青し五月雨　〃　蓬来
カレシ　迷ひ樓　辨宣ひる妹の赤の拾　〃　春重
ヒウニ　日別戸より打出　汀の入定し　〃　久洲
ホヤナ　細川の中小高麺のおいそぐ先　〃　木水
アクシ　芦の穂よ嘘メ汐帰の住来等　〃　春洲

フメミ　古沼北日利よちぐく牛の例　〃　今日酒
イチフ　稲妻やちくも新おき永　〃　耕州
ヨシニ　模造り清水一ト口鶴　濁を蟹　〃　松翠
タヒコ　竹ちくもの抜き乃嶋く移の白　〃　一兵
チニキ　北代田人蔭や量北金　砂子　〃　雄尾
サウイ　子苗高ち生れ久蟲の子　サノアカミ　梅枝
ヤクツ　流滴るの鈴つらく踏り　上ナ油保　一業
ハカナ　母のもるけるぬ嫁の長物　下谷　其変
コカイ　五月雨　仏壇の月　〃　里谷
スモヨ　祝つざよ元秋文出の女房　〃　熊字

シハス　白雪の如き肌の清き身　糸カンタ　手拭
テムユ　挑灯の武者絵も強く手長く　カンタ　藤袴
アヨハ　行燈の常の蓋なる運び　一刀
シカフ　扶持を取り組み　〃　評定
ミホス　水入の布袋の腰も遠く　〃　東扇
ニキツ　無の字の字も遠く　〃　寸詰
ハチツ　刎髪の髪の毛　〃　滿柳
タクカ　抱きつく　シハ　一志
フツヨ　風流な妻　日本ハシ　金糸
ムセ　胡麻　〃　長

タカア　武者絵の字の字も遠く　〃　丸髷
ウカミ　妻妻の事　〃　萬家
ヒムウ　口も面白　〃　大和
テトニ　多賀の牡丹の腸　〃　う丸
ナカタ　名も新も　〃　大髷
ユサキ　弓の打ち　〃　紬
チヤハ　地走り　〃　葛洞
本所　葛石

ハエヲ　八情の引くもの多き大矢数　ナ所　夏帽
ヒトア　干る湯屋の戸絞る清乃山　〃　乾雪
チャヲ　乳の恋乃乳く母へ送る孝　〃　松笑
エイセ　給の異変へつるさるとせなり　〃　光頂
ヲホヨ　お仕年と盆ま一ト振り寄る　〃　三上
モヨス　文結ぶれ組度数れ菓掛　〃　柳く
ケシウ　異変も梅ま梅ま節も寄い庶カ　〃　花刀
ツユハ　月涼い声も旦ろく茶　〃　扇風カツミカ
アサク　弱車沸も迷ひの来るけ乃　〃　巴紅
ミナハ　巻みく注るとも笑の陰　〃　山寄

足利
○　長〳〵と海嵐腸沸も沈引く　潔白
○　寄る小田畑を分ケて　楽園居　下サチハ　月庭
○　たゝ〳〵と裏瘦尺ゆる大れ舌　〃　雪庭
ハチヒ　跳帯の系菓ま義く先ッ初穂　向ケ里　一葉
○　一筋ま髪へ結ん〳〵　菖蒲の湯　江戸　住
○　上品な漁父も折り〳〵下玉茂　〃　水魚
○　引法ゝま義の子も壁の後産　小森連　上半
ワヤヤ　辻君の抑ま加〳〵ま　奴帝　京ハシ　亀童
○　引掛〳〵厂字ゆ割る情の勾　アカ坂　三輔
タイス　高り〳〵ま子ま人せる菓れ蒙　西下　富芝

ハナミ 初春今新菜摘そうと耳勝手
ヤナキ 焼たて〳〵流れ蓼の葉
ヲサト 折紙もきられず切る土用干し
ナカハ 竹の葉御立賀服たる むき襦袢
カリヲ 皮剥栗も壺種の 沖れ石
ヨトヽ 女房は土間迄もそのまゝさ
毛も孫 板戸の庫〳〵高瓦漬の漬〳〵
アヲキ 洞の蔵〳〵屋敷なる 桐も沈
○ きら〳〵と時雨すうせる米俵
ワヒエ 笑ひ面〳〵日ハ暮〳〵陽の絵師の冊

小日向野麦　〃　為麦
西コシ　〃　八玉
本丁　〃　三丁
西カヘ丁　〃　霍雅
石丁　〃　和調
花丁連　〃　戈鳥
〃　抵笑
〃　網清
〃　團久

テカヲ 出〳〵菓子と先きれ〳〵まづ女客　〃　鼠眼
カウタ 鐘一つ壽まる日ハ紅葉大九月　〃　真メ
アツサ 秋もまゝ訪る悔あつ〳〵逆カ小夜着　近連　扇巴
スイハ 角ミ蔓〳〵艶刷毛も春霞　〃　車音
ハツシ 汁多〳〵妻の帯縫ム色紙絵　〃　珠木
イケハ 一陽や蔦赤も蔓〳〵花の款　〃　為成
テカワ 挑灯も貸〳〵ぐされ乃巌の　〃　志納
ハコノ 造掛る子乃〳〵撲と向〳〵呑蕎菜　〃　東朝
ソヒワ 巻〳〵と立擦ま渡と附ケ本城　〃　金光
ヲキカ 抵の笠ま出双遠と　〃　嵐十

カワカ 鵜牛角ノ出せ坊ガ蟹ハ 伽き　後塗
ハカ　ハかるまじん底へ冷ヤ　其德
シリヲ 白菓二悔眉ヨ入る 義面　雜俵
イワカ 御来ゑ妻の色ヨ似ぬ堅法花　樂長
ヒイム 宵くるも五ッ物ちる 柳の花　露家勝
○ まんまるヨ芒のかぎヨ 積る　露初
クワシ 墨ちき角ヨ奄の戸メ菓ス　亀木
トキヲ 形の人ての絞とぞ今ふ 佃の子　木辰
ヲカハ 女業髪くるの ヨ 毋一人り　律源
ワシリ 附未寝ちり中れ 拓ちる　深川 酔笑

タミカ 玉簾くゝ水ヲ義腸のかゝ書井戸　蛾周
サテカ ヲの義れ乞り一糸の掛だち　サヲ赤定
クヨヲ 貴方ちゝ世ゝ楽くゝと親の思　本丁 扶下
イワヨ イヨお角力と参ちの抱くヨれ達去　近連 熊三
ススシ ちひくさく芝世下ぬる 紫日掉　菓廿
アタリ 兩金ヨ乞れ数ぬり 詩の 鮫　熊山
ハ子 ちちちさ思と東京る 朝 新　小舟 住居
ケスハ 氣ちも出責斤ちに 蓋ヲ二牧　舟九
ハイヨ 鼻紙へ一れ字ぬり 蛾の酒　寿菓堂 蔦九
ナカハ 嘗る平撥考かゝる 母の膝　蟹九

ヒニセ　陽は完西日ぼんやり　善光綱　鷲丸
ヤクヨ　小おれ車掛りの衣動定　〃　芝雪
ヨホヤ　折るれ及古張り鼠も焼加減　〃　喜撰
ハツカ　振と掉　松人うう宮へ行る砂　八十余　金星
ソ子ハ　手まるよ根分の業光義惑り　自来番　馬文
ユヒヒ　苗代や振移を植きるかりん　九百番　燕石
ムヒし　子有両人〻〻　馬来
サムカ　里親の馬の背中よ風車　花小番　馬来
テヲタ　出来秋や親のゆづり光田入実り　司　蕗露
モマヤ　公妙や前光眼祝義桂子　馬九　窓
　　百曲番　丙閣

イクヨ　周もし〻車へうつる流の月　全光番
ヲクニ　芋小使ての房嘴婦と二挺漕　一　口
日の出　巻の天家も戎鳥にる結ゆせ　在言番
　　陀羅神
　　秋収祝
　　翠子

○

トヲカ　那人きりの光鶯文も別〻駕の声　如水
カキイ　智へ鶏も鯱春生る伊豆光嬢　霞山
ヲアキ　男親沢と迷ふ子ふ乃志まり　拍枝
ユキノ　ひき世忘頼乃魚徑指る沈　関彌
ヲリク　小京出る律筆な妻も掃き模　夕千
キエナ　切海の衣紋比崎を鯨　稜　松花

トコヨ 緋糸北小枝忘よ絲の性根艸　路白

○

ムラシ 昆布巻よりする朝酒よさそし　亀樂
ハタシ 華山葵やたらしくと邵も清水酒　草李
ハヒム 一句九メうす身よ俤へ　大芽
キカハ 雖流を新を又くあるる解亀　梅魚

○

ハヲム 乃ゑム帆よ押戻さる中孤子多
ヲヒツ 雲ゑ波九くたてゑる夫の留も
ホヲス 干又せよ應拳ゑ鶏も砂浜く

九十公朔　田　支
尺義貳　春　喜
泰窓　民

ヲトト 太戸北言刀　秋を初通り　町
メナス 月ゑる形よ粉川の砂末浦
むし 二階住居よ焼鈍　芋　舟
ヲヲア 女郎丈婦中ゑ　せ
コミナ ゑちを馬士刀　略ゑ沢ゆゑ
コトキ 世所ゑを京の町
メシア 服よ住ゑを行よ人だ乃メ
てぶ 碑北住又刀　硯屋をたゑ
むし 朝精の水よ夢を川切り
アヤト 菴北秋彩根の甄よ戸のき

定月菴　芋　油
押墻菴
奈甫菴　芦　舟
湖月莽　嵐　石
喜月庵　志　夕
對　雨
秋窓菴　豊　鮮
丹頂菴　一　聲
観戦舎　可　成
月逞舎　破　紅
桃彩菴　雖　慶

ナカハ　五月雨の夜〳〵仏を安化石二

ツキト　衝立ものゝ上を書　月　竹窓舎

寛政五　同

布善

トカフ　○ものゝ化物も筆の先

○　某蓼庵

故人早聴

ハムム　羽根はく蛾黒眼も掠れ艶

子トハ　書を入るる者ハ走り芋

ソヨヒ　蛙〳〵と花も蝉化鮮の近へ

イツユ　除夜の巨燵ヵ一欲ばたらひ子の春歌

二江戸

笑魯

畢

井蓼庵蔵

東方こゝ

東方こゝろ
中西四郎義